

あがらの総活躍希望大使を任命

介護福祉課

☎0738・23・5851

認知症と診断されても、希望に満ち溢れ、毎日を楽しく暮らす塩路京さん（94歳）と山際裕三さん（81歳）。お二人を御坊市版認知症希望大使「あがらの総活躍希望大使」に任命しました。

あがらの総活躍希望大使

認知症希望大使は、認知症になっても希望をもって暮らせることを目的に、政府が全国規模で活躍する5名の当事者を任命し、都道府県ごとに設置することを目標に挙げています。しかし、都道府県規模となると、活動の幅が広く、当事者の身体的負担も大きいため、より地域に密着した活躍が出来るよう、本市では全国初の試みとして、市町村単位で任命しました。



90年生きてきて

今が一番充実している

塩路さんは、若い頃に事務の仕事をしていました。パソコンやワープロのない時代に文書をすべて手書きで作成されてきました。こうしたことから、字をきれいに書くことが得意になり、現在では毎朝、般若心経を写経されています。

近年では、その達筆さから、賞状などの筆耕を依頼されることもあり、NHK厚生文化事業団「認知症と共に生きるまち大賞」の表彰状は毎年、すべて塩路さんが筆耕されています。今回の任命証も塩路さんに依頼し、書き上げていただきました。

「90年生きてきて今が一番充実している。」と塩路さんはよくおっしゃいます。「総活躍」を象徴する一言で、本当に毎日が楽しいと感じられる言葉です。

塩路さんは「私にできる仕事があればもってください」とまだまだ意欲的です。

認知症やなくても

失敗するんやから

山際さんは、定年まで郵便局で勤務され、退職後はハーモニカや家庭菜園、日曜大工などたくさんさんの趣味を楽しみながら暮らされています。

認知症と診断されてからも、「何も変わらんよ」という思いで毎日を過ごされています。

趣味のハーモニカは、楽譜を見ればほとんどの楽曲を演奏できるほどの腕前で、「人前で演奏して喜んでもらえたら嬉しい」と、デイサービスや小学校での講座で披露されています。

「認知症やなくても失敗するんやから」と山際さんが言った一言は、周りにいる私たちに考えさせられる一言です。その言葉の真相は、些細なミスが原因で「認知症だから」と次のチャンスを奪われてしまうことで、何もできなくなり自信がなくなってしまうということでした。

認知症と聞くと、何もできなくなってしまうと思う人も少なくないと思います。しかし、決して何もできなくなるわけではありません。この山際さんの一言は、「認知症の人でもそうでない人も、失敗することもあればできることもある。」そういうことに気づかせてくれる一言です。



御坊市認知症のひともとにも築く

総活躍のまち条例施行から2年

今月で「御坊市認知症の人とともに築く総活躍のまち条例」の施行から2年が経過します。

認知症になっても、希望を持ち誰もが活躍できる社会の実現のために、条例の基本理念の普及に努めました。

また、その基本理念を達成するためのより具体的な取り組みとして「認知症施策推進基本計画」を策定しました。

この基本計画では、「認知症・認知症の人への先入観の払拭」を最重要課題としています。

今後、あがらの総活躍希望大使を中心に、認知症の人や関係機関の皆さまと認知症に関する正しい理解の普及に努め、誰もがよりよい暮らしができる御坊市が実現できるよう、様々な取り組みを推進します。